

冬の交通の難所で担う道路保全

厳しい冬の東北で高速道路の保全を担うネクスコ・メンテナンス東北。十和田事業所は青森・秋田・岩手の3県にまたがる豪雪・寒冷地帯を管理している。事業課主任の岩沢彰太さんは「この区間は降雪や路面、視界状況の急変が起こりやすい。特に安代〜小坂1C間は吹雪などで視界が悪化し、通行止めが発生しやすい区間です」と話す。

作業内容と体制を決定する雪氷判定会議は朝と夕、1日2回行う。巡回により実際に確認した情報、CC TV（監視カメラ）映像、気象予測などから総合的に判断するそうだ。

技術や工夫を生かした安全対策

おもな作業の一つは凍結防止剤（簡単に言うと塩と塩水）の散布。「路面凍結を防ぐのが目的で、巡回では路面の塩分濃度も測ります」と、同課の嶋津朋さん。昨冬の薬剤散布作業回数が2,691回、散布量約7,800tという途方もない数値に圧倒される。また除雪車の作業回数は、昨冬1,336回。夜間や降雪時など難しい状況下での作業が多く、熟練の技術が必要となる。

作業車は出勤回数も多く、稼働時間も長い。そのため、車両が故障すること

もある。「車両が元気に動いている姿を見ると安心します」（嶋津さん）。

お客さまの安全確保のため、追越禁止の注意喚起を作業車の後方に電光標示しているが、吹雪などで標識が見づらいことも多い。そこで独自に工夫し、昨冬から光を照射する「帯状ガイドライト」を装着。追従するお客さまから路面前方に線が見え、追越禁止区域がわかりやすくなった。

120人が一丸で冬に立ち向かう

走行車線の除雪だけでなく、トンネル内のつらら落とし、標識の除雪

など、作業は多岐にわたる。中央分離帯のポールを目立たせたり、事故の多い場所に自発光装置を設置したり、設備による工夫も施している。

知人から最近「除雪作業が小まめな高速道路は安心して走行できる。雪の日でも規制速度から移動時間を計算できて助かる」という話を聞いた嶋津さん。自身の担当する雪氷作業が役立つしていると、改めて実感したとか。「昼夜2交替で約120人が一丸となり、安全確保に尽力しています。安全走行のため、冬は特に時間に余裕をもっておでかけください」。



ハイウェイを支える人々

Vol. 34

高速道路の裏側に潜入

冬期の雪氷作業は、北東北の人・物の流れを支える命綱。40台の作業車と120人の作業員が、経験と技術、独自の工夫を生かし、豪雪地帯の高速道路を守っています。

株式会社ネクスコ・メンテナンス東北 十和田事業所



事業課主任
岩沢 彰太さん

事業課
嶋津 朋さん



1. 防災対策室から作業車両へ無線で指示。作業状況なども交信
2. 高頻度・長時間の稼働に備えて、機材の確認や整備は欠かせない
3. 緑の光の線で追い越しを防ぐ、発光装置「帯状ガイドライト」
4. 除雪車2台による梯回除雪。路肩側へ順番に雪を押し出す